

教科(科目)	家庭	総時数	35 時間	学年(コース)	2 学年
使用教科書	東京書籍『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』				
副教材等	明治図書『技術家庭総合ノート 家庭分野』				

1 学習目標

実践的・体験的な学習活動をとおして、一人の生活者としての基礎的な知識と技術を身に付けさせる。また、自分の家庭生活や地域の生活に深い関心を持ち、課題をもって生活を改善充実しようとする能力と、積極的な態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 健康を考えた食事をととのえることができるようにするため、中学生の栄養に関する基礎的な知識を日常の生活と関連付けて理解する。
- ② 食品を栄養の特徴別に分類し、一日に必要な食品の概量を把握して献立を考えることができるようにする。
- ③ 食生活の自立に必要な実践的な技術を習得できるようにする。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	私たちの食生活	食生活と栄養 食事の役割	生活の中で食事が果たす役割や、健康と食事の関わりについて理解する。	3	授業の取組
5		栄養素の種類と働き	五大栄養素の種類と働きや、食品の栄養的特徴を知り、中学生の時期に必要な栄養について考える。	3	授業の取組 視聴覚学習
6		基礎縫い	手縫いの基礎を振り返る。	4	作品
7		巾着製作		6	作品
8					
9			摂取基準があることを知り、食品を6つの食品群に分類することができるようにする。	2	定期テスト
10		献立作りと食品の選択	中学生に必要な栄養量をみたく献立を考える。	5	ワークシート
11					
12		食品の選択と購入	生鮮食品や加工食品の品質の良否を見分け、用途に応じて適切な食品の選択ができるようにする。	3	授業の取組 視聴覚学習
1		食品の保存と 食中毒の予防	食生活の安全と衛生に注意して、食品や調理器具などの適切な管理ができるようにする。	3	授業の取組
2		調理と食文化	食の安全や食料自給率について学ぶ。	2	定期テスト
3		日常食の調理	調理実習を通して協調性や効率を学ぶ。	4	プリント

計35時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

・作品 ・視聴覚学習によるプリント ・献立作成ワークシート ・調理実習プリント

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
(主体的に学習に取り組む態度)	(思考・判断・表現)	(知識・技能)
衣食住や家族の生活などに関心を持ち、これからの家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしている。	衣食住や家族の生活などを見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫している。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組 ・作品、プリントなどの提出物 ・定期テスト などから、総合的に評価します。		

6 担当者からの一言

2年生では「食生活」の分野を学びます。自分の食生活を見直し、健康的な食生活を目指しましょう。また、食の問題やこれからの課題などを知り、どのように食と接していけばよいかを考えましょう。手縫いの作品は、秋燕祭に出品します。 (担当：倉茂)